

「骸骨ビルの庭」

登場人物紹介

パパちゃん

阿部 敏正

骸骨ビルの相続人。戦後復員兵として帰還し、骸骨ビルで50名を超える戦災孤児たちを養った。孤児の1人から性的暴行の告発を受け汚名を着せられたまま、心筋梗塞により67歳で他界。孤児たちからは「パパちゃん」と呼ばれていた。

茂木のおじちゃん

茂木 泰造

骸骨ビルの307号室に住んでいる。阿部の友人。戦争当時は肺結核を患っていたため徴兵されず、骸骨ビルには肺結核療養のためにやってきた。阿部と共に戦災孤児たちを育て、今なお住み続けている。

トシ坊

木内 俊明

骸骨ビルの303号室に住んでいる大型トレーラーの運転手。骸骨ビルへは3つ上の姉と共に逃げ込んだが、その後姉は病で他界。大男で優しい性格。茂木の世話をするために離婚した。

ヒゲおくん

熊田 英人

骸骨ビルの202号室を事務所として使用。「媚薬園」というSM雑誌を編集発行している。月刊スイートパンサー社の代表。

ナナちゃん

小田 勇策

骸骨ビルの305号室に住んでいる。性転換手術を受け、北新地にある老舗おかまバーで働いている。バーのママからの薦めで読書を始め、読んだ本は700冊を超える。得意料理のトロロ汁は絶品で、住人たちにも定評がある。

チヤッピー

布久 志郎

骸骨ビルの205号室でタイコー彫金という小さな工房を営んでおり、妻と息子と共に別の住居で暮らしている。作業中に大火傷を負ったところを八木沢に助けられる。

ヨネスタ

浜田 米雄

骸骨ビルの201号室を事務所としている暴力団の若頭。組員になってからは改名して浜田龍堂と名乗っている。幼少の頃からケンカが強く問題を起こしていたが、庭での畑仕事には熱心で、特に肥料となる馬糞集めと、畑の害虫駆除が得意だった。

峰ちゃん

市田 峰太郎

骸骨ビルの302号室でダッチワイフの研究開発を、きわめて真面目に行っている。弟妹と共に骸骨ビルへたどり着いたが、弟は生まれながら脳に重度の障害をもっており16歳で他界した。

木下のアコちゃん

木下 誠

骸骨ビルの204号室を事務所として使用。人材派遣会社の代表。コーヒーにこだわりがあり、上質な衣服を身に着けている。妹の聖子も304号室でデザイン工房を営んでいる。

比呂子ねえちゃん

湊 比呂子

十三商店街のはずれにある「みなと食堂」を経営している。18歳の時に一人暮らしの老婦人の家で働くことになり、人としてのあり方を学ぶ。子どもの頃から気配り上手で手先も器用なため、骸骨ビルでは皆のお姉さん役をしていた。

ヤギショウさん

八木沢 省三郎

長年勤めた会社を早期退職し、再就職先の仕事で「骸骨ビル」に管理人として赴任。3ヶ月間ビルの一室に駐在し、住人たちの来歴を聞きながら日記をつけていた。住人たちからは「ヤギショウさん」と呼ばれている。

幸ちゃん

菊田 幸一

骸骨ビルの206号室を事務所として使用。日本粉新聞社の社主。幼少時に、万引きグループに拾われたので、5歳で骸骨ビルに来てもなかなか盗癖が治らなかった。

サワちゃん

佐倉 峰雄

骸骨ビルの301号室で探偵事務所を営んでいる。日本人離れした彫りの深い顔立ち。女性の着物や装飾品に関心を示す。

夏美

桐田 夏美

骸骨ビルで育った戦災孤児の一人。ビルを離れて39年後、当時阿部敏正に性的暴行を受けていたと告発した。現在は京都の漬物店で働いている。